

令和6年度第3回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和6年10月3日（木） 午後3時30分～午後5時00分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館5階 5-3、5-4会議室

出席委員 中條、秋山、田口、中北、濱口、前島、竹内、  
山本、竹中、伊藤、北川、西山、三宅、岡村、大井戸

事務局 健康福祉部

- ・健康福祉部次長
- ・子育て応援課 課長、子育て応援係長、こども育成係長、  
こども育成係主事2名
- ・保育課 課長、保育係長、施設運営係長
- ・福祉総合支援センター センター長、こども家庭相談係主査
- ・健康課 課長、母子保健係長
- ・生活支援課 課長
- ・こども発達支援室 室長

教育委員会事務局

- ・教育総務課 課長
- ・学校教育課 副参事
- ・社会教育課 課長
- ・教育研究所 所長

傍聴者 0名

議 題

- (1) 「第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」における施策・見込み量の検討について
- (2) 「伊勢市こども計画（仮称）」における施策案の検討について
- (3) 次期「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」について
- (4) 「伊勢市こども計画（仮称）」の骨子案について
- (5) その他

・事務局より委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１）

（質疑なし）

【事務局より】

議題（２）について説明（資料２-１、資料２-２、資料２-３）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

●「郷土に対する誇り・愛情を育み」という部分について、具体的にどのようなことをされているのか。

→小学校3・4年生の児童を対象に、伊勢市や地域を学ぶ地域学習を行っており、社会科副読本「わたしたちの伊勢市」を教育研究所が教職員とともに作成し、こどもたちの教育の学びにつなげている。また、歴史教材「ふるさと伊勢」も作成し、活用しているほか、教育研究所のホームページの方にも掲載している。

（※補記 ホームページ内の教員のみがアクセスできるページに掲載しています）

●小学校の教職員が不足していると聞くが、伊勢市ではどうか。

→教員不足は大きな課題であり、教育委員会としては、市内の大学や地域の方に声をかけさせていただきながら、人材確保に努めている。

●放課後児童クラブの指導員の技能向上の研修について、早速取り上げていただきありがたい。つい最近、放課後児童クラブで、体調不良の児童が緊急搬送されることがあった。特に命にかかわる研修は積極的に発信していただきたい。また、施策の番号が上の項目と重複している。

→研修は、市危機管理課や消防等と連携して開催していけたらと考えている。番号については、こども・若者部分の27番と、第3期計画の27番となっているが、実際の計画には番号は記載しない。

●こどもがいじめを訴えやすい状況にあるか。いじめかどうかの判断基準とは。また、こどもたちへはどのような働きかけをしているか。

→1学期に1回アンケートを実施しているほか、市でもハイパーQ Uという心の中を知るアンケートを実施し、実態を把握している。本人が「つらい」と感じたらいじめとなるので、学校では早期把握し対応に努めている。また、道徳や総合の授業はもちろんのこと、学校生活全体でいじめは許さないという指導を行っている。

(委) こどもたちが実際にいじめを受けていると訴えることはあったか。

→昨年度、こども家庭庁からモデル的に採択され実施している取り組みとして、匿名のチャットで相談できるアプリを、こどもが1人1台持っているタブレット端末に入れている。令和5年11月から始め、約半年で526件の相談があり、いじめの相談も50件あった。中には「友達がいじめられている」という情報もあり、学校と協力し対応している。また、そのアプリを開発した事業者に、いじめ防止の授業や、PTA向けの研修も実施している。

(委) こどもの心の育ち方が大事。小さいときから人を思いやる気持ちを育てることが大切なので、計画にも取り入れていただくといいかと思う。

(委) 今は未然防止をベースに事業が組み立てられ実施されていると思うので、それがもう少しこどもたちに身近になっていけばいい。

(委) いじめる子は追い詰められている子が多いと感じるので、ぜひいじめる方のこどもの気持ちも聞いてあげてほしい。

(委) 私立幼稚園のPTA連合会で「みんなの学校」という映画の上映会をしたら、保護者にとっても好評だった。一般向けに市が上映会を開催したら、マインドが変わる保護者が出てきて、社会が変わっていくのではないかと考えているので、検討していただけたらと思う。

#### 【事務局より】

議題(3)について説明(資料3)

●説明にあった「多機能」とはどのような内容か具体的にわかるとよい。また、伊勢市としてこどもをこのように育てたいという思いがあってほしい。

(委) 市全体として少子化傾向にある中でも待機児童を発生させないように、公立・私立で取り組んでいくが、この施設整備計画は公立施設をどうしていくかに特化しているので

ご理解賜りたい。

(委) 少子化による施設統合で園を減らすというよりは、機能集約をし、より良い保育や教育を受けられる施設となるというような視点も持っていただきたい。

●施設整備計画の説明で、人数を提示したりしなかったりしたのはなぜか。

→資料内には全施設の人数を記載しているが、統合関係の説明では、それぞれの規模感を鑑み、人数も含めて説明させていただいた。

●誰でも通園制度の概略を教えてほしい。

→対象は、保育施設等を利用していない6か月から2歳までの児童である。伊勢市では、令和8年度の本格的な実施に向け、希望する施設については令和7年度からの実施ができるよう進めていきたいと考えている。

●一時預かりなどの数値が最初に出てきたので、誰でも通園制度のことは入れなくてもいいのではないか。

→今この計画に記載はないが、誰でも通園制度の見込み量や定員数、確保方策については、最終的には記載する予定である。

#### 【事務局より】

議題（4）について説明（資料4）

●中高生や若者で「今幸せだと思ふ人」と回答した人の割合が多いようだが、「自分の将来について明るい希望がある」という回答は少ない。どう読み取ればよいか。

→回答者が想定した「将来」が近い未来なのか、何十年後かというのにもよるのではないかと考える。

●伊勢市こども計画における「こども」の表記について、統一しようという方向性は見えるが、「こども」と「子ども」の表記が混在している。あえての部分もあると思うが、計画本文の冒頭や脚注表記などで、どうしてこの表記なのかという説明があってもいいのではないか。

→令和4年9月にこども家庭庁の準備室から、基本的にはひらがな表記の「こども」を用いて、特別な理由がある場合には漢字表記の「子ども」を使うという通知が出ている。

今回の資料では精査しきれていない部分があるが、注釈をつけて、見ていただく方にどんなときにどんな表記をしているかわかる形にしていきたい。

(委) 表記は大事である。ただ、「子育て」は漢字表記であったりするので、統一が難しい。伊勢市として「こども」表記をしていくとなると、この会議体の名称「子ども・子育て会議」と整合性がとれなくなるので、こちらも一緒に考えていけるとよい。また、一桁数字は全角で、二桁以上は半角を用いていると思うが、それも混在しているので、改めて確認いただきたい。

(委) 会議体の名称については条例で定めたものなので、機会をとらえて検討していきたい。

●骨子案の理念や方針は、法律やこども大綱から考えていると思うが、それを踏まえて、4ページ1-5 (3) ①目的・理念について、2行目の文章を読むと「10年が経過した、これを踏まえて」と読んでしまうが、「これ」とはこども大綱のことだと思うので、「これ」を「この大綱」としてはどうか。また、3ページ1-4 (2) ①3行目にある「幼児期の学校教育・保育」という言葉について、国が出した文書にあると説明を受けたが、「本市における」とあるので引っかかる。ご検討いただきたい。

●次世代育成支援事業計画の時から関わっているので、こどもの権利が中心に据えられた現在の状況は感慨深い。こどもの権利をみんなが理解し、お互いに尊重できるようになると、いじめや大人になってからの人権問題もなくなっていくのではないかと。ぜひみんなが進めていきたい。

(委) 人口が減ってきてこどもが少なくなってくると、ますます権利という感覚は大事になってくるので、これを具体的に実行していく伊勢市であればと思う。

#### 【事務局より】

議題(5)について新規事業の説明、次回開催予定、議事録公開の説明